

3 血圧はどうやって測るの？

鳥海進一 (自治医科大学医学部 臨床医学部門 内科学講座 循環器内科学部門)
星出 聡 (自治医科大学医学部 臨床医学部門 内科学講座 循環器内科学部門)
苅尾七臣 (自治医科大学医学部 臨床医学部門 内科学講座 循環器内科学部門 主任教授)

POINT



正確な血圧測定は、患者管理の基本中の基本である！

診察室血圧と家庭血圧の違いを理解する！

高血圧診断のスタンダードになりつつある 24 時間自由行動下血圧測定を知っておく！

はじめに

内科でも外科でも、患者管理の基本中の基本は、「正確なバイタルサインのチェック」です。バイタルサインのなかでも、血圧はその中心的存在であり、正確な血圧測定や測定値の理解をおろそかにしてはいけません。目の前の患者の状態と、得られた血圧値に乖離が疑われたときには、ちゅう

ちよせず先輩看護師や担当医らに相談する姿勢が重要です。

本章では、診察室血圧・家庭血圧の正しい血圧測定方法や評価、ならびに最近話題の 24 時間自由行動下血圧測定について述べていきます。



診察室血圧

高血圧と診断するためには、まず正しく血圧が測定されなければなりません。血圧の測定は、診察室や病棟においては水銀血圧計を用いた聴診法、あるいは自動血圧計を用いて測定します。簡単にはありますが、聴診法の原理 (図1) や標準的な測定法 (表1・図2)、高血圧診断基準 (表2) を示します。

厳密に指針に従って得られた診察室や病棟での

血圧は、家庭血圧や 24 時間自由行動下血圧と少なくとも同等の臨床的価値を有することが知られています¹⁾。しかし、そのような指針どおりの (= 時間のかかる) 血圧測定は、忙しい医療現場においてはなかなか行い難く、多くの場合、診察室や病棟では精確性にやや欠ける血圧測定がなされているのが現状です。血圧はきわめて変動しやすく、通常の測定環境においても著明な血圧上昇を示す

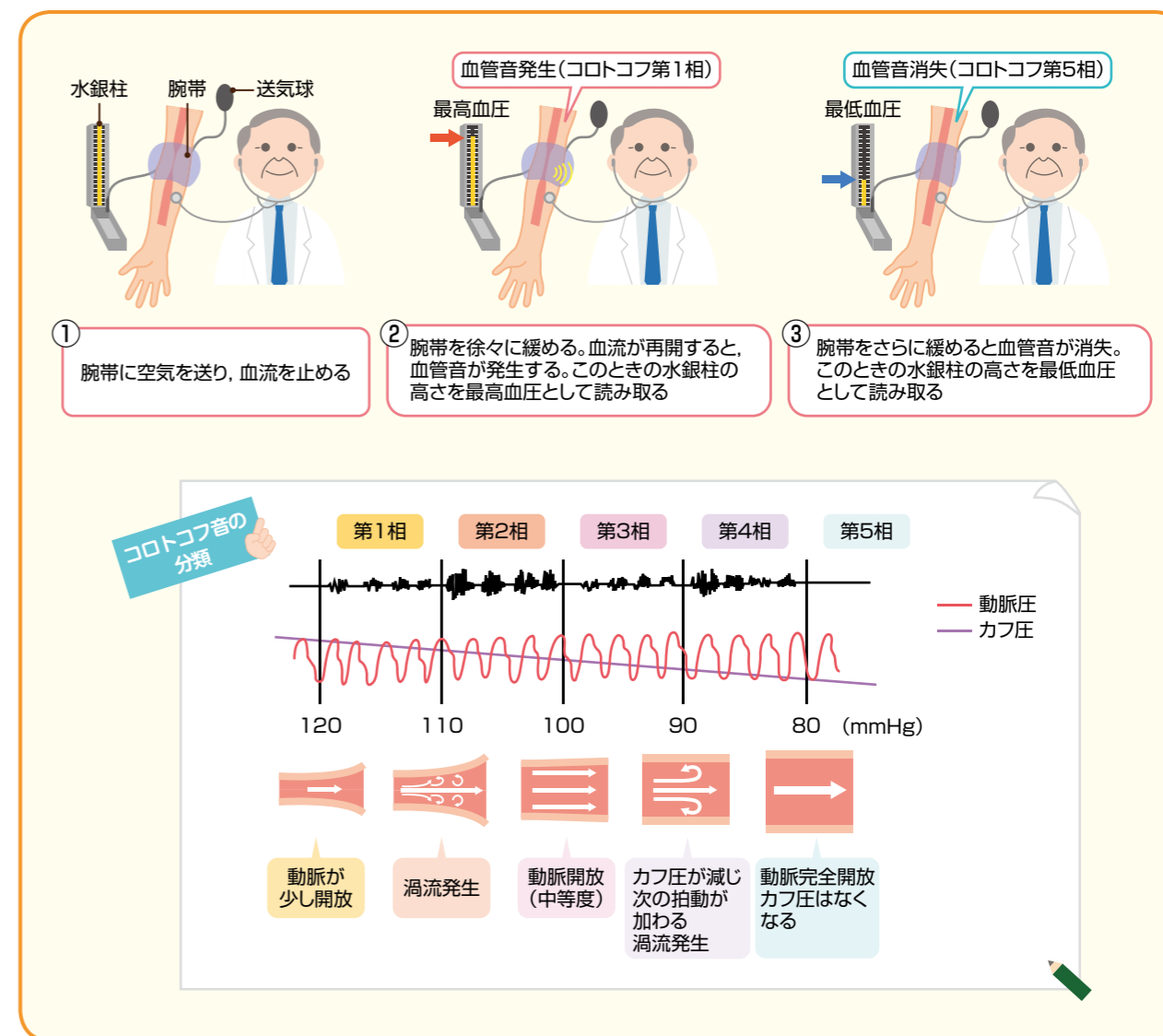


図1 聴診法とコロトコフ音